

2021年度 玉川学園教育課程特例校評価（自己評価結果）

評価：4（十分達成）、3（やや達成）、2（やや不十分）、1（不十分）

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2021年度の自己評価	
JPクラス・EPクラスにおける日本語と英語による指導	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ●特別免許を保有するコーディネーターを配置し、カリキュラムや全体運営を統括・管理出来ている。 ●教育部長を中心にコーディネーターと教務主任が連携・調整を図ることで英語と日本語による指導を円滑に実施、効果的に学べる環境を提供できている。 	4	
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で教科指導を行う際は、学習指導要領の内容事項が担保されるよう、日本の教員免許保有者と外国籍教員（特別免許保有者等）で協働して指導計画や評価方法などを策定、実施に努めている。 	4
		授業は円滑に運営できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●1・2年生は学級担任制、3～5年生は教科担任制で学習指導を実施している。 ●日本語指導教科は検定教科書を、英語で指導または英語と日本語で指導する教科は検定教科書とその翻訳版、その他内容に応じた副教材を活用している。 ●第1言語である日本語を着実に身に付け、その上で英語を同時に身に付けるという考えで学習を進めている。 	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校1年入学時点では英語力を問う試験は課さず、多様な背景を持った児童に対して教育の機会を提供している。 ●EPクラス編入希望者に対しては学年相応の英語力も必要となるが、学習環境や見通しなどを説明し、JPクラスのメリットも含め丁寧に説明し、個々に応じた対応を行っている。 	4
		入学後の対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●全教室に教師コーナーがあり、質問できる体制を取っている。 ●英語力が不足する児童に対しては、少人数個別指導など弾力的に対応し、学力面は定期的な補習（SH）も実施している。 	4
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ●保護者に向けての教育説明、実践報告に努めている。 ●授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。 	3
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●英語力の向上がみられる。 ●国語や算数などの基礎学力も定着している。 	4
その他	その他	<ul style="list-style-type: none"> ●6年生からのMYP開始を見据えて、4年生以上のカリキュラムの策定、実施を進める。 ●外国籍教員の研修の充実 	4	

評価：4（十分達成）、3（やや達成）、2（やや不十分）、1（不十分）

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2021年度の自己評価	
IBクラス・MYPにおける英語による指導	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ●教育部長（IB担当）を配置し、IBプログラム全体運営を統括・管理している。 ●教務、カリキュラム管理では、コーディネーターと教務主任（IB担当）を配置し、一般クラスとの連携を図りながら運営している。 ●人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。 	4	
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●IBクラスの詳細を説明したガイドブックを作成し、オリエンテーション時に説明を行っている。 	4
		学習指導要領の内容は適切に実施されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●教務主任（IB担当）及びIB教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。 	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●入学後の学習を見据えた入学試験を実施し、多様な背景を持った生徒に対して教育の機会を提供している。 	4
		入学後の対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●英語力および日本語力が不足する生徒に対しては、早朝の集中講義の提供や、習熟度別のクラス分けで効果的に言語力が身につくよう配慮している。 ●模擬国連会議活動等への参加や、大学進学を視野に入れた講座など、教室の学びだけではない実践的な国際教育の場を提供している。 	3
		国際標準教育が提供できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●教務主任（IB担当）により双方のカリキュラムを適切に管理し、生徒がIBプログラムと一条校の学習指導要領の内容を効果的に全うできるよう、入念な措置を講じている。 	4
情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●年度毎のテーマに沿った説明会・講演会（IBフォーラム）において生徒による発表を行うなど、入学希望者のみならず一般向けにも授業の実践状況を紹介し、情報の提供に努めている。 	3	
実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●IBでの学びを通じて「批判的思考」能力が培われている。 ●将来の進路選択に際して、自立した考えを持つ生徒の増加。 	4	

評価：4（十分達成）、3（やや達成）、2（やや不十分）、1（不十分）

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2021年度の自己評価	
IBクラス・DIPにおける新科目の設置	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ●教育部長（IB担当）を配置し、IBプログラム全体運営を統括・管理している。 ●教務、カリキュラム管理では、コーディネーターと教務主任（IB担当）を配置し、一般クラスとの連携を図りながら運営している。 ●人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。 	4	
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●IBクラスの詳細を説明したガイドブックを作成し、オリエンテーション時に説明を行っている。 	4
		学習指導要領の科目との対応関係を求める科目は適切に実施されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●教務主任（IB担当）及びIB教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。 	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	転編入や一般クラスとのクラス変更の際に、配慮出来ているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●IBクラス、一般クラス間で生徒や保護者の希望によるクラス変更を一定の基準の元、弾力的に行うとともに、他校へ転出する場合も指導対応する体制を取っている。 	4
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ●授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。 	3
実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の高等学校の学習環境のもと、IBDPの学習内容をリンクさせて学習することが出来る。 ●将来の進路において、国内外への大学進学などより幅広く選択できる可能性が広がる。 	4	

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Program Division』『IB Programs Division』を設けています。

Primary Division (幼稚園および1～5年) = 幼稚園および小学校1～5年

Secondary Program Division (6～12年) = 一般クラスの小学校6年～高校3年

IB Programs Division (6～12年) = IBクラスの小学校6年～高校3年

玉川学園[幼小中高]

2021年度学校関係者評価結果

K-12 父母会役員からの意見聴取 (まとめ)

2021年度の学校関係者評価会議では、本学への要望・期待について、保護者の視点からご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

本学への要望・期待

◆K-12 教育活動の自己評価

<Primary Division>

- ・コロナ禍にあっても、全人教育の理念は損なうことなく、カリキュラムや学習内容の充実を図った結果、英語力の向上という成果が得られたことを評価する。
- ・学級閉鎖時にもオンライン授業で受講できることにより、学びを止めることなく過ごせたり、父母会のオンライン実施も非常に助かった。反面、先生方と保護者や、保護者同士の情報交換の場や繋がりが少なくなってしまう印象がある。
- ・学習については全く心配ない。「外で遊ぶ」「子ども同士で触れ合う」などリアルの体験がもっと増えることを期待する。

<Secondary Program Division>

- ・コロナ禍のために達成できなかった改善点も含め、前年度からの課題、次年度への改善方法など、適切に評価していると思う。
- ・全人教育の理念に基づいた教育の成果について定性的な評価があると良い。
- ・外国人教職員に全人教育や玉川っ子らしさを浸透させることを課題視していた点は納得感があり賛同できる。

<IB Programs Division>

- ・制約が多い環境下でも、工夫を凝らした学習を進めている。
- ・対面の機会が少ない中でも、全人教育の理念と玉川っ子像を伝え続けてくれることを、保護者として非常に嬉しく頼もしく思う。

<Division 共通>

- ・Division ごとに特徴的な教育課程だが、今後、各 Division に属する子どもたちや保護者、教職員がさらに一体感を持てるように情報共有できる場があると良いと思う。

◆教育課程特例校

【評価ポイント：特例部分の学習活動が適切に行われていると思うか】(回答：19名)

適切である：47.4% 概ね適切である：52.6% やや不適切である：0% 不適切である：0%

<JP・EP クラス>

- ・同じ校舎、隣の教室で学んでいる環境を生かし、JP・EP 双方の良い所 (指導方法や使用教材など) を共有することで、さらにより良い人材育成に繋がっていくのではないかと。

<IB-MYP>

- ・他の Division に在籍しているが、IB クラスの学習活動は概ね適切に行われていると思う。自己評価が「3 (やや達成)」の項目については、更なる充実を期待する。

<IB-DP>

- ・先生方が密に連携を取り、現状に甘んじることなく、子どもたちにより良い学習環境の整備を重ねていることを再認識した。

令和4年6月1日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園小学部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園小学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園小学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、小学校段階におけるグローバル人材育成のため、教員配置等の実施体制の工夫や学力の定着状況等、実施による効果について確認できている。また、バイリンガルクラス（EPクラス）に留まらず、一般クラス（JPクラス）も含め、成果をふまえた教育課程や教育活動、評価方法の見直しなど、相互間で連携しながら進めていることが確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・対面とオンラインのハイブリッドによる教育活動を意識した取り組みの更なる充実。
- ・日本語と英語で学習する教科の継続したカリキュラム開発、副教材の活用。
- ・戦略的な募集、採用活動による指導教員の確保。

令和4年6月1日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園中学部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園中学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園中学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、日本の教育制度と IB プログラムを融合した国際教育を展開するため、必要となる教職員採用・配置および教職員研修を実施するとともに、教員配置等の実施体制の工夫や学力の定着状況等、実施による効果を継続的に確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・小学部のバイリンガルクラス（EP クラス）からの内部進学生と、外部入学者との英語力のレベル差に対する配慮（入試設定や入学後のサポート体制の充実など）。
- ・外国籍教員、外国人留学生や外国籍の生徒などを含む多様性を意識した教育環境の整備、支援スタッフの配置。

令和4年6月1日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園高等部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園高等部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園高等部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、日本の教育制度と IB プログラムを融合した国際教育を展開するため、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の設置を含めた実施体制の工夫や学力の定着状況等、国内外への大学進学など、実施による効果について確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・現在特例校として認められている以外の国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の高等学校学習指導要領の科目との対応関係を求めるため、変更申請を検討。
- ・2022 年度から年次進行で進む新学習指導要領の実施に伴う対応（教育課程改訂、外国籍教員への対応）。